



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱しんこがねい			
保護者評価実施期間	2025年1月6日 ～ 2025年1月31日			
保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	20
従業者評価実施期間	2025年1月6日 ～ 2025年1月31日			
従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自由遊びのなかで人との関わり、コミュニケーションを経験し学ぶ機会を提供している	子ども自身の気持ちを言葉にして、伝え方を知らせることから、くり返しコミュニケーションのモデルを示し、やり取りを助ける気持ちをわかってもらえた、一緒に遊べた実感をもてる経験を詰めるように支援している	年齢や経験に合わせ、子ども同士のやりとりを主体とした関わりを後押しできるよう、遊び全体や関わりの方々の様子も丁寧に観察し、一人ひとりに合わせた必要な支援を提供する
2	好きな遊びや刺激のなかで、リラックスして過ごせる放課後の居場所である	子どもが主体的に遊びや活動を選んで心地よく過ごせるよう、行動を観察し必要な支援を提供する 年間を通し学校や家庭と情報を共有し、ご様子に合わせて一日の緊張や疲れを緩める活動を提供する	好きな遊びの空間と時間、遊具を保障できるよう、活動に合わせて室内のレイアウトを変更しやすい工夫をする
3	保護者とともに子どもの発達状況や特性理解に努め、子どもと保護者のニーズに合わせた情報提供と相談支援を行う	ご利用中以外のご様子についても、丁寧に情報共有、相談を実施し、面談等で子どもの共通理解、ご家族のニーズの把握に努めている	関係機関との連携を強化し、ご家族の課題に沿った必要な情報を提供できるよう努めていく

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流、他のこどもとの交流の機会が少ない	利用児のほとんどが同じ学校に通学しているので、事業所内での子ども同士の新たな交流は望みにくい	集団生活や通所の機会をつかって、社会的なルール、マナーに沿って楽しむ経験を積めるように活動を設定する 子どもに合わせて、地域の公共施設・交通機関を利用する活動の機会をもつ

2	現状の方法以上に、保護者に事業所での活動やお子様のご様子を知っていただく機会をもちにくい	送迎時や連絡帳、面談の機会等でお子様のご利用中の様子をお伝えするよう努めているが、まだ十分ではない 全体への通信は、個人情報に留意する必要があり、現状の業務のなかで活動の様子を発信していくことが難しい	保護者の希望に合わせて、個別に活動の様子を写真等で知らせていく機会を増やす、見学の機会を設ける 行事や活動の様子を定期的に発信する方法について、他の業務を含めて再検討する
3	利用日数の追加希望、新たな利用希望の声に応えられていない	子どもの特性、継続した療育の提供を考慮し、スポットのみの利用は積極的にすすめていない	同法人内の別事業所とも連携し、ニーズに合わせた新たな利用希望に対応する スポット利用から継続した支援へとつなげられるように、関係機関とも連携し、ご要望にお応えできるよう努める